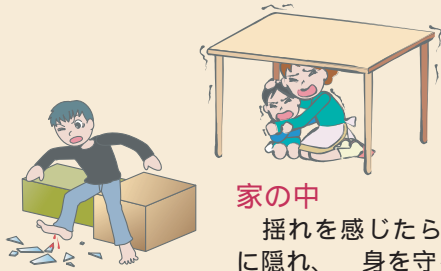


地震が起きたら

大地震が発生したら、
どのように行動したらよいのでしょうか？

屋内では



家の中

揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守る。(余裕がなければ、手近な座布団などで頭を保護する)

はだして歩き回らない。(ガラスの破片などでケガをする)

火の始末はすみやかに。(ブレーカーやガスの元栓の処理も忘れ



地下街

あわてて地上に飛び出さないで、揺れがおさまるまで壁ぎわで身を守る。停電になっても非常灯がつくので、あわてず壁ぎわに歩き、出入り口へ。



デパート・スーパー

カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示に従い、落ちついた行動を。



集合住宅

ドアや窓をあけて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



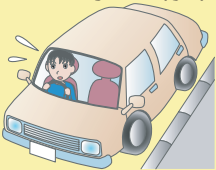
劇場・ホール

カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてず冷静な行動を。

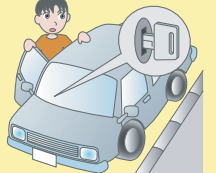


屋外では

左へ寄せて停車



キーはつけたまま



車を運転中

ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に止め、エンジンを切る。

揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。

避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックはしない。車検証や貴重品を忘れずに持ち出し、避難は徒歩で。



路上

窓ガラスなどの落下物から頭などを保護して、空き地や公園などに避難する。

近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れ安全性の高い場所へ移動する。

ブロック塀や自動販売機などには近づかない。

山くずれ・がけくずれ・津波の危険地域ではすばやく避難しましょう。



電車などの車内

つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。途中で止まっても、非常コックを勝手に使って車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。

乗務員の指示に従って落ちついた行動を。



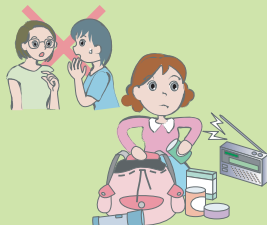
避難時

避難は徒歩で、
持物は最小限に自動車を使うと、渋滞を引き起こし、消火活動や救援救護活動の妨げになります。避難は徒歩で、荷物は必要最小限の物だけにしましょう。



デマに惑わされず

正しい情報で行動を災害時はデマなどに惑わされやすくなります。報道機関や区市町村、消防・警察などからの情報に注意しましょう。



勤務先では

帰宅困難者対策

帰宅困難者対策の基本原則は、「組織は組織で対応する」です。

事業所は、災害時に従業員や顧客を守り、また、経済活動の継続や地域への貢献という社会的責任を自覚し、地震災害を防止するための努力が義務付けられています。

災害時には、組織の責任において安否情報や交通情報等を収集し、災害の状況を十分把握し、帰宅の困難な人については事業所内で保護してください。

発災直後の対応

- 1 従業員一人ひとりが自主的に行動を
- 2 初期救助・初期救護が重要
- 3 出火防止・初期消火はすみやかに
- 4 正確な情報を収集しましょう
- 5 地域住民に協力を
- 6 危険が迫ったらすみやかに避難